

夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議 議事要旨

会議名	第 3 期夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議（第 10 回）
日時	令和 3 年 9 月 24 日（金）18 時 30 分～20 時 30 分
出席	米原立将、藤本知香、井村良英、小畑くるみ、唐亀康司、佐藤奈々、田口美幸、安部芳絵、坂下香澄、佐藤米子、小松佳世子、山中ゆう子、飯野結香、佐藤邦彦、栗原一雄、松本零、横内幸子、石川拓海、伊藤梓、川手芳尚、角田健太朗 [事務局] 横塚子ども家庭部長、五箇野子育て推進課長、守屋子ども家庭支援センター長、三輪保育課長、江頭保育振興担当課長、平川、野島
欠席	宮田章子、赤瀬瞳、畔田世紀子、石井直行、丹野日和、吉田祐太
配布資料	(1) 子育て／健康複合施設について (2) 令和 3 年度 保育施設 定員・実施数・待機児童数 / 立川市保育のあり方検討について (3) こどもとおとなのはなしあい in 市議会議場 実施状況 / アンケート自由記述 / 当日プログラム (4) 立川市子どもの自己肯定感などに関する調査報告書（速報版）
会議場所	立川市役所 302 会議室（オンライン併用）
<p>1. 保育施設等の待機児童について／認定こども園について／保育のあり方検討について</p> <p>(1) 事務局（保育課長）からの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 待機児童数は、令和 3 年 4 月 1 日現在 26 人。前年度 47 人から 21 人の減。1 歳児を中心としてなお待機がある状況。 ・ 今後の定員の受け入れ枠の拡大は、令和 2 年 4 月に民営化した柴崎保育園の園舎建て替えにより、令和 4 年度は 29 人の定員増を見込む。 ・ 令和 4 年度より、認可保育所 1 施設が幼保連携型認定こども園へ移行する。立川市では初の幼保連携型認定こども園。1 号認定の定員は 12 人であり、周辺の幼稚園等への大きな影響はないと見込む。 ・ 立川市の保育のあり方検討委員会を設置し、これからの立川市の保育のあり方について検討を行う。今年度中に 5 回開催予定。開催にあたって、市内の教育・保育施設にアンケート調査を行っている。 <p>(2) 委員からの質問・意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①保育のあり方について、近隣市で公立保育園の廃止の動きがあるが、立川市はどのような方向なのか、②メンバー構成はどのようなようになるのかとの質問。事務局からは、①方向性については全く決まっていないので、立川市の保育のあり方での提言を踏まえて今後決定していきたい、②メンバーについては、保護者委員、教育・保育施設の代表者、児童発達支援施設長経験者、医師、学識経験者を考えていると回答。 ・ 企業主導型保育事業を利用する保護者への市からの補助がないので、検討していただきたいとの意見。ご意見として伺う。 ・ 公立保育所は、保育の標準という位置づけがあると考えている。私立保育所の立場としては、医療的ケア児の受け入れ等公立のリードが必要。 	

- ・ 待機児童が減ることはいいことだが、定員の少ない家庭的保育事業では欠員が出ると、収入が減り経営が厳しい。保育施設が定員割れした場合の市のバックアップについて質問。事務局からは、定員割れをした家庭的保育事業へ一人あたり3万円の補助を実施済み、今後保育施設は選択される時代であり、定員をどのようにするか協議することが必要と回答。
- ・ 保育のあり方の検討の中で、教育施設についても自己評価や第三者評価の活用を検討していただきたい。
- ・ 少子化にともない保育の量についても検討せざるを得ない。それをどのように地域で考えていくのか、学校や学童も含めた大きな流れがある。
- ・ 幼稚園の一時預かりが利用できないことがある、保育のあり方の検討でこうした点も考慮に入れていただきたい。

2. 子育て／健康複合施設について

(1) 事務局（子ども家庭支援センター長）からの報告

- ・ 令和7年に供用開始予定。場所はたましん RISURU ホール北側で床面積約3,700平米。機能を集約し、ドリーム学園、健康会館、子ども家庭支援センター、教育支援課、子育てひろばの事務局が入る計画。
- ・ 基本計画、基本設計、実施設計と進めていき、ハード面と並行してソフト面での検討を行う。

(2) 委員からの質問・意見等

- ・ 子育て支援が低年齢層にフォーカスしているので、その上の世代の子どもたちが相談できる場所となることを要望。
- ・ 子どもの貧困は減ってきているが、18歳から25歳の貧困がクローズアップされている。18歳以降の支援も必要ではないか。
- ・ オンラインの活用や人的資源の確保、支援団体への支援をお願いしたい。
- ・ 健康会館等の跡地利用について現在の状況。具体的に決まっていない。今後サウンディング調査等で利用方法について検討が行われる見通し。

3. こどもとおとなのはなしあい in 市議会議場の開催について

(1) 事務局（子育て推進課）からの報告

- ・ 別紙実施状況に沿って報告。4件の提案があり3件は採用、1件は再提案。アンケートに関しては、提案者、傍聴者ともにおおむね「満足」「よかった」との感想。

(2) 委員からの質問・意見等

- ・ 当日の大人とのやりとりで子どもたちのプランが練られていく様子はよかった。当日の発表が4件になるまでの過程について質問。事務局からは、①全体として16件の提案があり、提案内容について物を買って終わりではなく、ある程度しっかりやっていると確認したこと、②推進会議の企画部会やウドラ夢たち基金と相談したこと、③今回発表に至らなかった提案についてはウドラ夢たち基金からの手紙を送っていると回答。
- ・ 子どもたちの自分の意思をしっかり表明している姿がよかった。
- ・ もう少し大人のほうに準備ができているとよかった。また、翌年に結果報告ができる場があるといい。

- ・ 発表ができたこと自体がよかった。ファシリテーターとしては4件すべて通したかった。
- ・ コロナ禍の影響もあるのか、子どもたちの提案内容が社会問題解決型で、イベントのようなワクワクする内容ではなかった。
- ・ 開催して見えてきた課題について、当日参加したメンバーで総括会議を行ったので、次回以降につなげていきたい。

4. 子どもの自己肯定感などに関する調査について

(1) 事務局（子育て推進課）からの報告

- ・ 別紙速報版に沿って報告。回答数は小学5年生が1,229人、中学2年生が1,021人。問2、問7、問14、問19、問21から23の結果を説明。前回との比較等は、今後分析の中で行い、年度内に報告書としてまとめたい。

(2) 委員からの質問・意見等

- ・ 問14について、小学5年生が中学2年生より「条文や関連した本などを読んだことがある」の数値が高い理由について調べていただきたい。

5. その他

(1) 各委員からの報告

- ・ 今年度のたまがわ・みらいパークまつりは延期。
- ・ チャイルドラインで受け手養成講座を開始。公開講座として、9月26日に「遊びを脳科学する～生きる力はどう育まれるか～」、10月17日に思春期の性を理解する～大人が知識を得て、子どもの不安を受け止めよう～」を実施。小中学生へチャイルドラインのカード配布を行った。11月にチャイルドラインを知ってもらう全国キャンペーンを実施予定。

(2) ひとこと

- ・ 任期満了を迎えるにあたって各委員からひとこといただいた。